

認知症支援・介護予防・活躍推進に関する計画の取組みに向けたご意見

<p>デジタル技術の活用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○3割を超える高齢者の方がスマートフォンを利用しているという現状を踏まえ、高齢者＝電子機器を使用できないというステレオタイプの見方を捨て、高齢者の方もデジタルデジタル技術を獲得できるように支援していくことはとても良いことである。 ○支援を行う人材として、私共、大学生のような、電子機器によく触れ合っている若い世代を介入させ、世代を超えた交流にも繋げていくのはどうか。 ○約7割の方はスマートフォンを利用されていないとも考えられ、高齢者の方の中でも、電子機器の所持そのものに格差が生じていることが課題ではないか。 ○課題に対する取り組みとして、以下を提案したい。 <ul style="list-style-type: none"> ・昨今の市の取り組みの一つである、市立小中、特別支援学校の全ての児童へのタブレット端末配布にあやかり、高齢者へIoTを搭載したタブレット端末〔(仮)らくらくタブレット〕の配布を行う。 ・高齢者間の電子機器所持の格差をなくす。 ・IoTを搭載する事で、見守りや安否確認も可能にする。 ・支援者側も統一された機器であることで、支援をスムーズに行うことができる。(マニュアルの作成も可能) ・市が管理するという点で、市政だより等の情報もタブレットに直接発信することが可能となり、より広い情報の周知も期待できる。同時に、情報提供手段を紙媒体から電子媒体へ移行することにより、資源の削減にも繋げることができる。(環境への配慮) ○実際にオンライン授業等で日常的に使用している大学生など巻き込んで、異世代間交流を図りつつ展開できたらいい。若者に何か役に立ちたい気持ちはあるが、具体的にどう動けばよいか分からない方も多いため、ボランティア募集時の広報に一工夫が必要。(ライン・ツイッターの活用、大学内やショッピングモールなど様々な世代の集まる場へのフライヤー配布やポスター掲示など) 介護事業所でも高齢者のデジタルスキルに関するニュースが増えており、この取り組みがうまく機能することを願っています。新型コロナウイルス感染予防に配慮し、新しい集まり方を知り、「離れていても繋がれる」ことが可能になることが、健康を保つ一つの支援になると思います。 ○コロナ禍において高齢者が思うように外出できない中、外部との接触のできる動画配信やZOOMでの参加で、他の人との繋がりが出来るようなシステムを考える必要がある。生きがい活動ステーションのZOOMに関する講座には高齢者の参加者も多く、皆さまも興味を継続して活用されているようです。地域の市民センターでも是非、ZOOMに関する講座を開催し、高齢者も誰一人取り残さない北九州市がモデル都市になれば良いと思います。 ○『地域の方』だけでなく、若い方(大学生だけでなく、専門学校生も含む)を巻き込んだ計画が実施され、全国にアピールできたら、とても素晴らしいと思った。これを機に、自然災害が少ない北九州市にIT産業が目を向け、新しい企
----------------------	--

	<p>業の誘致に繋がれば素晴らしいと考える。</p> <p>○コロナ禍における「デジタル技術の活用」は高齢者のいきがいくくりにもつながる。今回、高齢者だけでなく、それを支える地域の人たちにも焦点をあてたことはよいことだと思います。今後、地道な取り組みの積み重ねが期待される場所です。</p>
<p>生きがい・社会参加・地域貢献の推進</p>	<p>○北九州市の観光の一つは平尾台だと思うがアクセスがない。年配者も平尾台で自然を満喫したいが「足」がない。土日祭日でもいいので市営バスを運行させて欲しい。平尾台をPRすべきではないか。</p> <p>○デジタルツールに高齢者がついていけない方が多いのは当然であるが、メリットは図り知れないものがあるので、学校・行政等から変わっていくべきだと思う。そうすれば、おのずと地域で教室等も行われ易くなるのではないか？</p> <p>○老人クラブでも孤独にさせない為、友愛訪問活動をおこなっていますが、コロナ禍で外出もままならず、会員の中には人との接触がなく不安でうつ病になった方もいらっしゃいます。極力、電話で話し相手、安否確認をしています。体力的にも低下が伺えます。コロナ対応をしながら元気を取り戻してもらえよう老人クラブとしても考え中です。</p> <p>○人と会わないという事が情報の断絶になると感じている。人と人が出会う→抱えている問題に共感する→課題解決に向けての行動の動機づけになる→行動の流れなので、活動意欲の低下対策を考えることが重要。リモートでできることは限られており、1～3年に及ぶであろう断絶的な空白は、活動者の意欲・気力・活力・体力に重大な影響を及ぼすため、情報の出し方が今まで以上に重要になると思う。寄り添う・集まる・仲間づくり・居場所づくり等などが制限されるなかで、どうするかが課題である。</p>
<p>主体的な健康づくり・介護予防の促進</p>	<p>○大きな所では（素案に）賛成です。地域に支援や予防を求めるだけでなく、企業等にも支援や介護予防をお願いする必要がある。企業等トップの意識を変える為、税金の優遇等お金で目を向けさせる事も必要だと思う。</p> <p>○コロナ禍において活動量が減り、高齢者の体力低下や認知症、さらに要介護状態になる二次被害が増える事が予想されます。現場サイドでも、緊急事態宣言解除後の運動教室参加高齢者は、心身共に低下しているように思えるので、新しい生活様式を取り入れながら早急な対応が必要と考えます。例えば、地域の市民センターなどにインターネット環境を整備し、オンライン運動教室やDVDを活用した事業から実施すれば、数回に分けて密にならない設定も可能であるし、高齢者がデジタルに触れる機会と技術サポートなどの支援にも繋がると思う。</p>
<p>見守り合い 支え合いの 地域づくり</p>	<p>○老人会の会長は後任が見つからず、やめられないと言っている。人材育成は早いうちから重要になると思います。</p> <p>○高齢者の方は持病も多く、薬局には足を運ぶ。薬局で相談していただくといういろいろな所につなぐことが可能。もっと薬局を活用していただければと思います。</p>
<p>総合的な認知症対策の推進</p>	<p>○コロナ禍で、認知症かもと不安を持っている人や、家族が発症した人が増えており、MCIよりも以前の人達に対応する必要性を感じます。自分に関係ないと思う情報はスルーされがちだが、必要になった時に相談窓口に行きつく仕組み</p>

	<p>があればよい。デジタル情報と共に、例えば情報が集まっている「110 番の家」のようなものが町内にあれば、認知症入り口の人達に伝えられるのでは。</p> <p>○認知症サポーターも高齢化が予想できます。このサポーター育成は、先を見据えた事業でなければいけません。コロナ禍での不活発症候群による認知症や要介護者の増加が見込まれる中、サポーターも増員だけでなく若い世代の動員を急速に進めるべきだと思います。</p>
生活支援体制の強化	<p>○配食サービスや買い物支援など、食べ物の調達（確保）は高齢者の栄養ロス等を良好に保ちフレイル予防の為に重要である。現在実施されているサービスを多くの高齢者に知ってもらうための広報を充実していただきたい。</p> <p>○市民が困った時や解決策と一緒に考えてくれるワンストップ窓口が必要です。市民センターや区役所、地域包括センターが一層その役割を果たしてほしい。また、市は色々なパンフレット、チラシで啓発をされていますが、デジタル技術を使える高齢者も増えていくので PR 動画の作成に力を入れてほしい。</p>
安心して生活できる環境づくり	<p>○町内会のあり方について、担当部署はもっと首を突っ込んで欲しい。1 町内会の規模が大きすぎてこまめに把握しきれてない。世の中が目まぐるしく変化しているのに、旧態依然として昔の通りを踏襲している。町内会に加入しない理由もその辺りにあるのではないのでしょうか。町内会を活性化すれば、もっと住みやすくなり高齢者の支援対策の一助になるような気がします。</p> <p>○市営バスを有効に活用して欲しい。年間パス 43,000 円は高すぎる、西鉄だけでなく、市営も入れて競争させてほしい。今後免許返納も増えるのでそれに対応していくことが必要</p> <p>○「お買い物バス」が今年の 10 月から地元若松区の高塔山の高台地区に運行開始となり、患者さんも多数利用され、大変喜ばれている。足がなく、便の悪い高台地区にお住いの高齢者の方は、通院などにも非常に苦労されていたので、今後も便が増えていくと良いと思います。</p>
全体的なもの	<p>○現在の状況や仕組みの上に次期プランが組立てられますが、コロナ禍というかつて経験したことのない状況になっているので、地域社会や人々の気持・生活にどのような変化をもたらしているのか等、中間の評価・修正をしっかりとしながら実施することを望む。(空洞化しないように)</p> <p>○取り組み事体は大変充実してきたが、検証がどうなされているのかが分かりにくい。本当にもしくは重要事業は何かを明確にするためには検証が必要。</p> <p>○パブリックコメント提出者の数や、返答数が少ないことに驚きました。計画が市民の生活と関係のないものになっているのか どうしたら市民の関心が集まるのかと思いました。意見と市の考え方を読み、地域の高齢者や認知症などの課題は、そこに住む住民が中心となり、さまざまな社会資源も活用し、解決していくしかないのかなと感じました。予算が少ないなか市はどのように支援していくのか、人と人、人と社会資源をつなげる支援をするのか、地域の実情が違うだけに、色々な具体策が必要なのかなと感じました。</p>